

再 評 価 調 書

I 事業概要					
事業名	農業農村整備事業（緊急農地防災事業）				
地区名	たかたな 高棚地区				
事業箇所	安城市				
事業のあらまし	<p>本地区は、安城市南西部の碧南市、刈谷市、高浜市に接した水田地帯に位置している。地区内流域247haの排水は県営ほ場整備事業安城西部地区（昭和43年～昭和51年）により整備された幹線排水路により二級河川稗田川に排水されている。</p> <p>しかし、流域内開発による降雨流出量の増加や既設排水機の老朽化に伴う排水能力の低下により地区内の排水状況は著しく悪化し、豪雨時にしばしば農地や農業用施設、公共施設等に湛水被害が生じている。</p> <p>このため、排水能力が不足している地区内の幹線排水路の整備することで湛水被害を防止し、農業経営と県民生活の安心・安全を図ることを目的として、平成24年度から緊急農地防災事業を実施し、平成31年度に完了する予定である。</p>				
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>機能低下した幹線排水路を整備し、農地、農業用施設及び公共施設等の湛水被害を防止する。（基準雨量：283mm/3日、1/20年確率雨量）</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>				
計画変更の推移		事前評価時	再評価時	変動要因の分析	
	事業期間	H24～H29	H24～H31	他事業との調整	
	事業費（億円）	8.0	8.2		
	経費内訳	工事費	6.4	6.6	精査
		用補費	0.7	0.7	
		その他	0.9	0.9	
事業内容	排水路 L=3,350m	排水路 L=3,350m			
II 評価					
①事業の必要性の変化	1) 必要性の変化	<p>【事前評価時の状況】</p> <p>幹線排水路が整備されてから39年が経過し、近年は施設の老朽化および流域の開発が進んだことによる流出量の増加によって、豪雨時には農地等に湛水被害が生じていた。</p> <p>営農に対して意欲的な地域であるとともに、地区内および周辺には農地だけでなく住宅や地域経済を支える工場も点在する地域であり、排水路を早急に整備し、排水能力を向上させる必要があった。</p> <p>【再評価時の状況】</p> <p>計画施設は、地区の湛水被害を防止するための基幹的な排水路であり、地区内の排水能力不足は変わっておらず、整備の必要性は事業採択時とほぼ同程度と考えられる。</p> <p>【変動要因の分析】</p> <p>地区内流域の状況にほとんど変化はなく、事業の必要性について変化はない。</p>			

	判定	B	A： 事業着手時に比べ必要性が増大している。 B： 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。 C： 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。 ※事業着手時と比較することが適当ではないと判断される場合は、「事業着手時」を「前回評価時」に置き換えることができる。				
		【理由】 地区の排水能力不足は変化しておらず、事業の必要性は事業着手時と同等であるため。					
②事業の進捗状況及び見込み	1) 進捗状況	【事業計画及び実績】					
			H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30 H31				
		工種 区分	調査・設計	←	→		
			用地補償	←	→		
			工事				
			・芦池排水路 (1,070m)		←		
		・茨池排水路 (1,460m)		←			
		・鯨川排水路 (820m)	←	→			
		事業費 (億円)	前回計画	8.0			
			実績	4.8			
今回計画	4.8						
			3.4				
	【進捗率】						
		これまでの計画に対する達成状況	全体進捗状況				
		計画	実績	達成率(%)	計画	進捗率(%)	
		[①]	[②]	[②÷①]	[③]	[②÷③]	
		延長(km)	3.35	2.70	80.6%	3.35	80.6%
		事業費(億円)	8.0	4.8	60.0%	8.2	58.5%
		工事費	6.4	4.1	64.1%	6.6	62.1%
		用地補償費	0.7	0.1	14.3%	0.7	14.3%
		その他	0.9	0.6	66.7%	0.9	66.7%
	【施工済みの内容】						
		・排水路 L=2,700m (芦池排水路L=420m、茨池排水路L=1,460m、鯨川排水路L=820m)					
	2) 未着手又は長期化の理由	事業期間中において芦池排水路に隣接する県道新設工事との施工分界について調整が発生し、調整に不測の日数を要したため事業期間が長期化している。					
	3) 今後の事業進捗の見込み	【阻害要因】 なし。 【今後の見込み】 今後、予算確保に努めながら事業進捗を図り、予定工期内の完了を目指す。					
	判定	B	A： これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。 B： 次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける） ○ これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ・ これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ・ これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 C： 阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。				

		<p>【理由】 県道との調整も順調に進んでおり、今後はほぼ計画どおりの完成が見込まれる。</p>
<p>Ⅲ 対応方針</p>		
<p>継続</p>	<p>中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。</p>	
<p>Ⅳ 事後評価実施の有無と主な評価内容</p>		
<p>■対象（事業完了後5年目） □対象外 【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】 —</p> <p>【主な評価内容】 本事業は想定規模と同等の降雨がなければ効果を検証できないため、事業完了後5年以内に想定規模と同等の降雨が発生した場合に効果を検証する。</p>		